

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年5月20日

【評価実施概要】

| | |
|---------------|-------------------------------------|
| 事業所番号 | 2170600429 |
| 法人名 | 株式会社 エステートホーム |
| 事業所名 | グループホーム サロン・ド・フレール |
| 所在地 (電話番号) | 岐阜市柳津町上佐波東1-44 (電話) 058(270)0609 |
| 評価機関名 | NPO法人 ぎふ住民福祉研究会 |
| 所在地 | 羽島市竹鼻町狐穴719-1 |
| 訪問調査日 | 平成19年5月9日 |

【情報提供票より】(19年5月25日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|-------|-----------------------------|
| 開設年月日 | 平成 15 年 3 月 10 日 |
| ユニット数 | 3ユニット |
| 職員数 | 常勤 12 人 非常勤 26 人 常勤換算 7.4 人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|--|--|
| 建物形態 | 併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/> | 新築 <input checked="" type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/> |
| 建物構造 | 木造 造り | |
| | 2階建ての | 1階 ~ 2階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|------------|----------------|------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 45,000 円 | その他の経費(月額) | 共益費12600 円 | |
| 敷金 | 有() 円 | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有() 円 | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 250 円 | 昼食 | 400 円 |
| | 夕食 | 450 円 | おやつ | 150 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4) 利用者の概要(5月9日現在)

| | | | | | |
|-------|------------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 26 名 | 男性 | 8 名 | 女性 | 18 名 |
| 要介護1 | 5 名 | 要介護2 | 9 名 | | |
| 要介護3 | 6 名 | 要介護4 | 4 名 | | |
| 要介護5 | 2 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 80.58 歳 | 最低 | 57 歳 | 最高 | 95 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------------------|
| 協力医療機関名 | 黒田内科クリニック 本荘歯科 笠松病院 |
|---------|---------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者を中心に積極的な改善取り組みがあり、職員間の関係も良く働きやすい職場作りがされている。また、職員間による評価も実施されている。グループホームの理念は、職員間においてよく共有が図られ、ご家族・地域等を対象に具体的な行動として啓発され、理解を深める努力がされている。事業所の方針が理念とともにマニュアル類や具体的な手順書にまで示されているため、ホームでは職員教育やサービスの質向上の取り組みがなされている。利用者がより良く暮らすための社会資源の活用も十分なされている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | ①家族が気軽に苦情が言える機会や雰囲気づくり②市町村やご家族との連絡を密にする③近隣の住民に親まれる家庭的な雰囲気作り④地域の人に理解を得よう回覧板の利用や行事に参加⑤入居者との時間を今より多くもつ⑥入居者の希望を聞き金銭管理をしてもらう など全てにおいて改善取り組みがされている。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 各ユニットのチーフが中心になって取り組みチーフ会議で検討している。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 昨年は9つのグループホームとご家族、民生委員、自治会長、関連市職員等の参加で6回情報交換やグループホームの理解を得る会議がもたれた。今年度はグループホームが地域の資源として活用される取り組みを目指している。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | ご家族の意見や苦情、不安への対応は取り組んでいる。より一層グループホームの運営に反映できるよう家族会の計画をしている。 |
| 重点項目⑤ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 地域の理解を得よう回覧板の活用や地域行事への参加、入りやすい雰囲気、認知症の理解のための冊子作成配布するなど積極的な取り組みをしている。 |

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 理念そのものが地域密着型のサービスを示しており「自由に ありのままに 自分らしく」暮らすサービス支援を柱にしている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | ユニット会議やミーティングにおいて、日常の支援の中でその人らしい暮らしについて話し合い、理念の共有が実践できるよう取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 日常的に散歩や買い物時に挨拶をしたり「認知症の理解」の冊子を作成しご家族や近所の方々に配布し喜ばれている。地域の行事にも積極的に参加している。管理者はグループホームが地域の資源として活用されることを目指している。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前回の評価での取り組み事項は、管理者・チーフ・ケアマネ・担当者で話し合いにより改善するよう取り組んでいる。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議は2ヶ月に1回、ご家族や自治会長・民生委員・行政のメンバーに地域のグループホームが参加し、ネットワーク作りやサービスに関する問題について検討しサービス向上に努めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|------|--|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 普段から市担当者と相談しやすい関係作りを行っている。事業所では新しい法律の解釈やサービスの意図的な事柄の相談をして質の向上に取り組んでいる。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月1回、金銭報告や担当スタッフから利用者の暮らしぶりを報告している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族には訪問時や手紙による問いかけにより要望等を聞くようにしている。また、苦情窓口や外部の相談窓口を紹介し、利用してもらえるよう留意している。要望についてはミーティングで反映するよう検討している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 管理者やチーフは、職員の異動や離職を減らすようスタッフの日々の業務の中で相談にのっている。新採用者には、チーフとペアで一定期間勤務を組み利用者の把握をしてから夜勤に入るなど、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新採用時は教育プログラムに沿って研修を実施している。また外部研修や内部研修は実施され報告されている。しかし職員のスキルアップについては、系統的・計画的には実施されていない。 | | 職員のスキルアップについては、目標を持って研修できるように計画を立てて行うことを期待したい。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者と交流するネットワークは作られているが、サービスの質を上げるための取り組みにはいたっていない。 | ○ | 他の同業者とネットワークが出来ているのでさらに、職員の相互訪問や研修を通じての質の向上の取り組みが望まれる。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|--|---|------|-----------------------------------|
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用者が安心して自分らしく生活できるようコミュニケーションを図り、ご家族に相談しながら理解を深めサービスを提供している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者一人ひとりの生活歴など昔のことを尋ねながら、できることを楽しみながら共にいき、時には教えてもらうようにしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の意向を尊重し、訴えが出来ない人についてはご家族より情報を得るようにして、チーフ・担当者会議等で検討している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 入居者が自分らしく暮らせるよう本人やご家族の要望を聞き、ユニット会議にてスタッフ全員で話し合い介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3～6ヶ月ごとの見直しがされるが、状態変化が見られる場合は、本人・ご家族・ケアマネ・スタッフ・医療関係者等にて話し合い、介護計画の見直しがされている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|---|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | ホームでの入浴困難な利用者には他の系列施設(ショートステイ)を利用した入浴を実施している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所の協力医には週1回の往診があり、利用者には同意をもらっている、入所前よりのかかりつけ医を希望される人にはスタッフまたはご家族が通院介助を行っている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 終末期に対する指針が定められており、ご家族・医師・看護師との連携を密にしながらおだやかな終末を迎えられるようスタッフ全員が共有し、支援している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 職員が入居者に寄り添うように優しく接しており、一人ひとりの経験や過去のアセスを元に尊厳を大切にしようとして努力している。しかし、人前での介護や誘導の声かけに対する職員の配慮は、人によってやや差が見られた。 | ○ | 入居者に接する接遇の仕方については、研修を行なう予定であるとのことなので、継続的に実施して欲しい。研修会等での意識の向上と日々のやりかたを日常的にリーダーが点検することによって、全職員がプライバシーに配慮した対応ができる事を望みたい。 |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | カラオケ・買い物・散歩など、入居者の希望がかなうよう支援している。希望があれば職員と入居者が1対1で買い物に行くなど柔軟に対応している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|---|--|------|--|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立は入居者の希望が取り入れられ、配膳・食事・後片付けとも入居者と職員と一緒にこなしている。職員と一緒に食事をしながら楽しく会話し、さりげなく介助している。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴日は一応決まっているが、入居者の入浴に対する希望を聞き、できる限り要望にこたえるようにしている。介助の必要ない入居者は毎日入浴したり、季節によって入浴回数を増やしたりしている。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 料理や盛り付け、裁縫・中庭の菜園での野菜作りなど、得意な分野で力を発揮してもらっている。また季節の行事ではおはぎ作りなど利用者に教えてもらう場面を作っている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 庭には毎日出ており、散歩や近くのスーパーに買い物に出掛けている。近所の喫茶店でモーニングを食べたり買い物をする時は、出来る人には自分で支払ってもらっている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関の鍵はかけておらず、チャイムで対応している。2階のユニットは重度の方が多いことと階段が危険な為、出入りに施錠されている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 災害時のマニュアルは完備されており、防火訓練は実施される予定である。隣人のホームに対する理解は得られているが、災害時に地域の人に協力してもらう体制は、不十分である。 | ○ | 近所の人に訓練時に参加を呼び掛ける回覧板を回したり、訓練後に様子を伝える等、理解と協力を得られるよう働きかけを続けて欲しい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事の量は記録され把握されている。食事はゆっくりできるように支援が行なわれており、水分摂取量にも気配りがされている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関には花が活けられベンチが置かれている。居間や台所、食堂は天井が高く明るい。壁にはイベントの写真や季節ごとの飾りがされ心地よい空間である。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者の部屋には、それぞれの希望のベッドや持ち込まれた家具・写真・生活用品が置かれ、居心地良く家庭的である。 | | |